

## 「私達は主に結びつく神の新しい作品」 エペソ2：6－10

堀田修一 19・7・14

主の体である教会の形成：素材＝罪の中に死んでいた私達を主と共に生かして下さった私達。：1－5。手段＝神の恵みによる。：4－9。目的＝神の新しい作品として良い行い（神の喜ばれる行い）をする為。2：10。

I 「キリスト・イエスにおいて、ともによみがえらされ、ともに天の所にすわらせてくださいました（不定過去）」：6。難しいみことばなので、ご説明します。

1.：5の内容は更に進み、私達は生かされただけではなく、よみがえられたのであり、何と天の所に座らせられたと語られる。ここで見落としてはならないのは、これらすべては「キリストとともに」（：5，6）「キリスト・イエスにおいて」＝「キリストにあって：キリストを信じキリストと霊的に結合した（キリストにつながる・キリストと一つの体にされた）のです。これが、1：20のキリストの状態に対応したものであり、「キリストに起こったことが、私達にも起こる」という事です。キリストこそ私達の「かしら」であり、私達がキリストの「体」（一体とされている）なのですから！キリストにつながっている・結合されている私達は、キリストの御業、恵み、いのち、立場に与かるのです。「キリスト・イエスにつくバプテスマ（主を信じた時、聖霊なる神が私達の心に生まれ、キリストと私達を霊的に結び付け一体とされるすごい恵み）を受けた私達はみな、その死にあずかるバプテスマを受けた…キリストの死にあずかるバプテスマによって、キリストとともに葬られたのです。それは、キリストが御父の栄光（御力）によって死者の中からよみがえられたように、私たちも、（キリストの）いのちにおいて新しい歩み（神の再創造による新しい神の作品として）をするためです」（ローマ6：3，4）。「バプテスマ（聖霊の内住によるバプテスマ）によってキリストとともに葬られ、また、キリストを死者の中からよみがえらせた神の力を信じる信仰によって、キリストとともによみがえらされたのです」（コロサイ2：12）。主に結びつく私達は、主の死（罪の償いと私達の罪の性質を滅ぼす）と復活（私達が主の命にあって新しい歩みをする）と天の神の座に着かれた（かしらなる主の支配・権威にあずかる）恵みの効力をいただいているのです。※視覚教材。主に繋がり、十字架・復活・天の御座の力を受けている。悪魔の力に勝つ力を主の御名により祈る時いただける。何という恵み！

2.「それは、あとに来る世々において、このすぐれて豊かな御恵みを、キリスト・イエスにおいて私たちに賜る慈愛によって明らかにお示しになるためでした」：7。私達が救われた神の御目的は、全時代、全世界に永遠に、私達への慈愛による神の恵みの富を立証、証拠立てる為でした。私達は、その証拠、神の作品（2：10）なのです。私達の救いは、神の栄光を現わす、示す、立証するものです。※私自身の生涯が、神の恵みの証人です！

3.「あなたがたは、恵みのゆえに、信仰によって（通して）救われた（完了形）のです。それは、自分自身から出たことではなく、神からの賜物（贈り物）です」：8。常に先行する「恵みのゆえに」：神が私達を救われたのは、私達の行いによるのではなく、神の自由な自発的な好意、一方的な恵みによります「それは」＝救われた事も主を信じる信仰でさえも神からの賜物です（マタイ16：17、Iコリ12：3、ピリピ1：29、IIペテロ1：1）。救いも信仰も「自分自身から出たことで

はなく」すべては「神からの賜物です」：8。

4. 「行いによるものではありません。だれも誇る（自慢する）ことのないためです」：9。救いの条件が、神の戒めを完全に守ったら救われるというものなら、誰も合格者はいない。自分の力で神の戒めを完全に行える人は一人もいません。私達は、自分の行いによって救われることは決してできず、自分の行いを誇る事は決してできません。ただ、すべての与え主である神を誇り、賛美するのです。

**Ⅱ 主の体である教会の目的**：「私達（教会）は神の作品（神が新しく造られたもの）であって、良い（有益な、ためになる、「役立つ」エペソ4：29、「益」ローマ8：28、「正しい」エペソ4：28）行いをするためにキリスト・イエスにあって（霊的に結合）造られたのです。神は、私達が良い行いに歩む（生活する、振る舞う。→救われる前→エペソ2：1-3）ように、その良い行いをもあらかじめ備えてくださった（前もって準備する）のです」：10。

1. 良い行いは、救いの条件ではなく、救い（主との命のつながりをいただいた）の結果・結ぶ果実・実です。主の救いの恵みから生まれるもの=①神へ：まず私達を愛された神への愛・心からの礼拝・賛美・感謝・喜んで奉げる奉げ物、奉仕・感謝しつつ神に従う。②自分へ：神が受け入れて下さった自分を自分でも受け入れる自己受容。③教会への実：互いに御言葉を分かち合い、祈り合い、支え合い、愛し合う。主の恵みを数える感謝の心。主の教会を共に建て上げる。④人々へ：語る者から聴く者へ。共感し寄り添う。隣人を愛する。お詫びする心。支配せず、支配されない。憎しみから敵対する人を赦す心、その人の為に祝福を祈る。感謝の心。尊敬する心。難しい人を受け入れる心。差別しない心。神が、その人に与えられた良い所を見つけ励ます。神に造られ、神に愛されている人として見る。無意味に生まれて来た人はいない。神は、一人一人にご計画を持っておられる。素晴らしい主を愛の振舞い、言葉を通して伝える。※これらの事は、主の恵み、救いの力！

2. 私達も、教会も、偶然の産物ではありません。創造主なる神が大切な御目的を持って造られた神の大切な作品です。神は、ご自身で造られた作品である私達、教会を心から愛しておられます。私たち人間でさえ、自分で大切に造った作品（絵、工作、建物、※証し。修理、取っ手、野菜、パソコンで制作したもの、書道、曲、芝、他）には、心からの愛着が湧く。神の愛は、私達に対して、その何倍もの愛、愛着をお持ち。感謝！もったいないほどの愛。

3. 神が、私達、教会を大切に造られた大切な目的は、私達が、神の望まれる良い行い（自分勝手な先走り、自己満足の行いではなく）をし、神の栄光（御性質、素晴らしさ）を現わす事（マタイ5：16、Iコリ10：31）。

4. 神はその良い行い（私達が神に伺いもせず、勝手に良いと思い込んでしまう行いではなく→神に伺い、神に喜ばれ、人にも真に益となる真に有益・役立つ。真に必要な・真に識別力のある愛の行い）をもあらかじめ備えて下さったので、私達は、その神に「あなたが備えて下さったあなたの喜ばれる行いは何でしょうか」と祈り伺いながら歩む。「主に喜ばれることが何であるかを見分けなさい」5：10。何か良い行いができた時、自分の手柄と勘違いをして自分を誇らない。すべては、神が備えて下さった善い行いと認め、神に感謝と栄光！